

外国語としてのフランス語授業において、 どのように語彙を指導するか

Olivier JAMET

天理大学

はじめに

外国語としてのフランス語授業において、どのように語彙を指導するのかを、少しお話させていただきます。学生は自分の語彙の少なさを嘆いているようです。「十分な語彙がない。覚えることができない。」こうした声をよく耳にします。文法、動詞の活用などと異なり、語彙への取り組みは、目的が不明確なままに行われることがあります。これは、今後の取り組みに対する妨げとなります。こうした欠点は、語彙が「開かれた」分野であること、フランス語は数万にのぼるということ、その結果、語彙の勉強が個別的で、長期にわたる作業になるという事実にあるのでしょうか。また語彙の分野は不規則であり、これを構造的にとらえることは不可能なののでしょうか。膨大な数の語を覚える困難さの理由はさておき、語彙習得は、フランス語の諸概念の理解や知識のレベルだけでなく、口頭や筆記による表現のレベルを決定づける重要な要因であります。授業で実践が困難と思われても、語彙の意味論と呼ばれる分野の研究は、数多く行われています。辞書もさまざまなタイプが発行されています。

本稿は、まず、70年代以降に発展してきた語彙指導に関する新しい教育アプローチをお話いたします。また、Gougenheimとそのチームにより、日常語を体系的に収集、編纂した*Français Fondamental*（基礎フランス語）が、非常に重要な教育的貢献をしたことについて短く触れたいと思います。最後に、授業に適したいくつかの教育的ツールをご紹介します。それでは、これから語彙教育のさまざまな方法を検討していきましょう。

語彙指導の6つの基本アプローチ

語彙指導については、6つの基本アプローチがあります。文献学的・語用論的、統語論的、指示的、形態論的、意味論的の各アプローチで

す。順にご説明しましょう。

1) 文献学的、語用論的アプローチ

まず、文献学的と語用論的アプローチです。語は文章やディスクールのツールとし、語そのものではなく、語を全体から考えます。文章作成や、多くは宗教関係や古文などの文章の意味を理解するために語彙を学ぶアプローチです。そのため、学生はさまざまな辞書を用い、語の定義を探し、語彙を練らなければなりません。これは読解・筆記訓練となります。しかし、構造主義の発展が、語彙の体系化をすすめ、文献学的アプローチは最近ではあまり実施されておりません。

ここ十年、ディスクールに注目した語用論的アプローチが発展してきました。コミュニケーションを重視しています。言語と語はツールとして考えます。伝統的な文献学的アプローチと異なり、語用論的アプローチは、文学、日常、オーラルなど、あらゆるジャンルの作成に用いることができます。語の定義ではなく、語と語の関係を中心に考えます。

文献学的アプローチと語用論的アプローチにおける語彙は、より良く読み、より良く書くことを目的としています。しかし最適の語彙学習とは言えません。語と語の意味関係の概念が明白ではなく、語彙の真の構造もありません。

2) 統語論的アプローチ

語は、他の語や、用法の制限との関係により、フレーズの中で分析されます。語には意味的特徴があります。ひとつの語の意味は、他の語を区別する特徴の集まりです。意味素 (*sèmes*や*traits sémantiques*) と呼ばれるものです。例えば、autobusは*intra-urbain* (市内)、autocarは*inter-urbain* (市間) で区別されます。肘掛椅子の*fauteuil*は、「肘掛」の意味素で、*siège* (椅子) と区別されます。

統語論的アプローチには、用法の制限があります。文脈が連続語の選択を制限します。*Grain de sable* (砂粒) は、*grain* (粒) を大きさの表現として認識します。*Les chaussures* (靴)、*les chemises* (シャツ)、*les robes* (ドレス) などの語は、大きさの表現が変化します。***Pointure de chaussure***、***encolure de chemise***、***taille de la robe***などのように。また、文脈からも制限されます。コーヒーには*torréfier* (煎る)、栗には*griller* (炒る) などです。意味からではなく、制限は統語論的にも行われます。*Étude de notaire* (公証人などの事務所) は、*bureau*, *cabinet* (いずれも事務室) より *étude* となります。*Compagnie aérienne* は、*société* や

entrepriseではなく、compagnieを使用します。意味的にはsociétéもentrepriseも間違いではありませんが使用しません。dire（言う）という行動は、演説の場合、prononcer un discours のようにprononcer（弁じる）が用いられます。また要請（requête）の場合は、formuler（申し立てる）やavancer（主張する）を使用します。ここでは、これら動詞が名詞の選択決定に関係しているのです。

文脈に応じて、語を選択し学ぶことが授業では基本となります。また例としていくつか挙げましょう。roche volcanique（溶岩）とは言いますが、caillouや pierre volcaniqueとは言いません。le renard est rusé（狐はずる賢い）であり、le renard est futé（狡猾）や astucieux（抜け目ない）とはなりません。

文脈や組み合わせにより、語はさまざまな価値をもちます。例えば、blanc（白）の反対語は noir（黒）ですが、形容詞 blancがワインにつくと、黒ではなく、赤、ロゼとなり、熊では、 brun（茶）となります。

このようにさまざまな情況や文脈により、語の価値は多様となります。フランス語に多い多義性が、学生を混乱させることもあります。しかしながら文脈を離れた抽象的な語の意味を学習・記憶することは適切ではありません。この方法はおすすめしません。

3) 指示的アプローチ

これからご紹介する指示的、形態論的、意味論的アプローチの3つのアプローチは、語をsigne（記号）として考えます。指示的アプローチは、事物ごとに適切な語を一致させ、事物を示すことを目的とし、語彙を学び、理解します。まさに現実的な分類であり、観察や計画の描写に用いられます。例えば、料理のレシピなどです。授業の中で、プロヴァンス風ソースに必要な材料を紹介する場合の、poivron（ピーマン）、courgette（ズッキーニ）、oignon（タマネギ）、tomates（トマト）などのように。同様に、この方法は、専門用語の理解や、概念やメカニズムの習得が必要不可欠な専門フランス語指導に適しています。

しかし、指示とは直接関係がなく、語が体系にない場合、この方法には限度があります。分類は、他の概念への移動ができません。語彙が無秩序に複雑となるため、学生に混乱をきたし、語彙学習が困難であるという考えをもたせてしまいます。語彙学習が、百科事典学習に変わる危険があります。言語記号としての辞書と、百科事典的な辞書

を区別しなければなりません。

4-5) 形態論的アプローチ、正書アプローチ

形態論的アプローチは2つのアプローチに分かれます。さまざまな要素から構成された語を記号表記とした形態アプローチと、語彙の正書学習に関連した正書法アプローチです。

形態アプローチは、語の枠組みで行われます。基本的に、接頭辞、語幹、接尾辞を学習します。このアプローチは、学生がすぐに理解ができ、ラテン語、古代ギリシア語を語源にもつ、非常に覚えやすい、いくつかの語を習得できます。しかし、役立ちそうなアプローチですが、問題点もあります。特に、接辞の多義性です。例をあげますと、*ier* は *chevalier* (騎士)、*saladier* (サラダボウル) です。多くの接尾辞も同様です。

正書アプローチは、語を記号と考えたアプローチです。しかし、このアプローチは、語彙そのものよりも語彙の正書学習といえます。間違いなく書くことを目的に行われていますが、やはり大変な作業です。実際、同音異義語も多数あります。例として、*saint*、*ceint*、*seing*、*sain*、*sein*などがあげられます。

6) 意味論的アプローチ

このアプローチは、*signifié*、つまり意味を主として考えられています。すべての語は、現実を示し、語り、表現します。同時に、他の語とも関連しています。他の語との関連において、語の集まりは、語彙体系を形成し、また、他の語との類似や区別により表された語は、ソシュールの言う「価値」である意味を獲得します。網の目を作り上げた語彙は、羅列ではなく、きちんと構成されています。語彙はフランス語文法と同様に構成されていると言えます。

語彙の指導

では授業で、教師はどのように語彙を指導すればいいのでしょうか？新しい語を増やすのではなく、なによりもまず、語彙の構造のさまざまな法則を習得する手助けを学生に行うことです。語彙習得により、さまざまなコミュニケーションにおいて、必要となる単語を把握、記憶、活用することができます。それには語彙の構造関係網を明確にすることです。不規則な関係網ですが、法則を明らかにすることにより、語学習得への確かな方法となります。また、意味に一貫性をもった語に関連した多くの練習問題を実施します。例えば、一連の

語のグループ分けです。学生は共通の総称語を見つけだし、特定語をリストにします。例えば、*chaise*（いす）、*tabouret*（スツール）、*table*（テーブル）、*buffet*（食器棚）のように。

手短に、語彙指導をご紹介しましたが、結論としましては、最適なのは、意味論的アプローチであると思います。このアプローチは、語と語の関係、構成が明確だからです。語の選択は、文脈上の意味のニュアンスにより決められます。語を選択することは、まず「価値」を判断し、他の語と置き換えられるかを区別し、特性や他の語との違いをみることです。しかし、文脈とは違う意味を持つ語であることも考えなければなりません。

意味論の関係と語彙範囲

次に語彙教育の基礎となる、意味論的关系と語彙範囲についてお話させていただきます。

意味論的关系の定義は、対の語がひとつになり、一般化された意味をもっていることです。類似語により、多かれ少なかれ、置き換えができ、言語体系に組み込むことができます。この関係は、学び、分析し、明確に表現することができるため、常に関心をひきつけます。この意味論的关系の簡単な語の概念の指導は、授業に適しています。例えば、*vache à étable*（牛小屋）は、場所に関する意味論的关系です。*cordonnier*（靴の修理屋）、*chaussure*（靴）は、動作主と物の関係です。*cheval*（ウマ）の関係では、*hennissement*（いななき）が、ウマの典型的な嘶き声を表しています。意味における本質的な関係は、同一性、他者性、対立によって構成されています。

また付随的、偶発的な関係は多種多様で、大きく7つに分類することができます。動作主と行動、場所、内容、時、方法、量、特色の7つです。語彙指導は、アカデミズムを抜け出し、さまざまな生活があることを考慮しなければなりません。さらに地理を考えなければなりません。フランス南部では、*petit-déjeuner*（朝食）、*déjeuner*（昼食）、*dîner*（夕食）とは言いません。*déjeuner*, *dîner*, *souper*です。スイス・フランス語では、*soixante-dix*（70）を*septante*、*quatre-vingts*（80）を*huitante*、などと言います。そして社会文化も考慮します。社会的身分、集団、年齢などにより変化があります。若者は否定の省略を好みます。*je ne sais pas*を *j'sais pas*。Pote, mec, nanaなども好んで使います。逆さ言葉も同様です。俗語では、いくつかの語が音節を入れ換え

使用されています。Laisse tomber! がlaisse béton!といったように。またコミュニケーションの状況、スピーチを伴う儀礼なども考えねばなりません。Être domicilié, demeurer, crêcher, habiter はすべて「住む」の同じ意味ですが、状況により使用しなければなりません。言語のレベル、文体、また、話し言葉、俗語、また学術語の判断も重要です。

しかし、外国語としてのフランス語の指導において、初心者である学習者が語学を習得するには、同じ情報を多く提供するのではなく、フランス語を最低限習熟できるようにしなければなりません。そこで、選別し、段階を検討し、優先課題を決定することが重要となります。

基礎フランス語資料とツール

ここで、基礎フランス語をご紹介します。この言語資料は、フランスの教育・文化機関が、フランス語圏以外に、フランス語をより広め、より効果がでるようにと作成したものです。G.Gougenheimとその研究者チームが、調査の結果収集した、さまざまな7995語から、基礎語として約1500語を選び掲載しています。1475語のうち、語彙は1222語、文法語は253語です。基礎フランス語は、外国語としてのフランス語教育のために編纂されました。多くの教育的ツールの開発に大きく貢献しています。

続いて、語彙指導に有効ないくつかの教育的ツールについて申し上げます。まず、Larousse社の*Français Langue Etrangère* レベル1とレベル2の2巻の辞書です。*Français Langue Etrangère* レベル1は、フランス語初級者対象の辞書です。その目的は、用語、基本シンタックスの習得、書き言葉話し言葉の表現を学ぶことです。基本語彙は2581語です。書き言葉、話し言葉から収録されています。先ほどご紹介いたしました「基礎フランス語」の1450語も含まれています。約1000の他の単語は、その使用頻度や、成人の日常生活での利用度合いにより決まりました。イラストを多く使用しています。*Français Langue Etrangère* レベル2は、フランス語学習の第2段階者が対象です。さまざまな文書を理解、作成し、また、書き、話す日常フランス語をマスターすることが目的です。5000の見出し語を収録しています。レベル1の2500語に2500語が加わりました。レベル1と同様に、イラストが重要な役割を果たしています。

次に異なったアプローチの2冊をご紹介します。Hachette社の2巻か

らなる *Vocabulaire illustré* と、Cle International社の *Vocabulaire progressif du français* です。Hachette社の *Vocabulaire illustré* シリーズは、語彙に関して、練習、復習などが盛り込まれた2巻からなります。 *Le Vocabulaire illustré 1* は、フランス語を学ぶ初級の学生が対象です。750語からなる40問題があります。語彙を直接的に理解、記憶するために、イラストがふんだんに使用されています。 *Le Vocabulaire illustré 2* は、フランス語を学ぶ中級の学生が対象です。第1部では、使用頻度が高く、有効な600語からなる25問題があります。第2部はテスト問題があります。創意工夫に富んだ内容で、第1部で習得した知識を確認することができる問題が、第2部で繰り返し出題されています。Cle International社の *Vocabulaire progressif du français* は、授業だけでなく、自習にも適した教材です。日常生活で使用する具象語を収録し、名詞、形容詞、動詞など2490語が索引に掲載されています。主要なテーマに沿い、25章で構成されています。語彙習得に向けたさまざまなアプローチや、いくつかの教材をご紹介させていただきましたが、最後に、フランス文化・社会、フランス語を教える者として、私がコミュニケーションにおいて、基本的に重要と思うことを、お話いたします。

コミュニケーションにおける基本事項

フランス語の複雑さ、フランス文化・社会との日本の距離、また大学における学生の不均衡なモチベーションなどを考えると、教育的メッセージがより効率よく伝達し、学習がうまくいくためには、まず、クラスの生徒たちと関係を築き、また、生徒同士も、時間をかけて、関係を作り上げることが必要です。つまり、よく統制のとれたグループ・ダイナミックスにより、集団が存在し、また、情報のコミュニケーションが円滑に行われることが必要なのです。そのためには、まず教室では、机をすべての生徒が互いに顔を見ることができるよう配置します。黒板が必要ない場合、机を円形に配置、黒板が必要な場合は、U字型にします。円形の場合、教師は、その中の1つに座り、U字型の場合は、教師はスツールを使用します。このような配置が一番望ましく思われます。緊張をほぐす雰囲気作りのための、気配り、尊敬、微笑み、冗談などで、生徒たちと教師との関係をできるだけ配慮することが必要です。また、教師は、他のクラスの生徒たちの間に、気配り、互いに敬意を払い、心遣いをするような関係を構築させるようにしなければいけません。各々、互いをもっと知り、知ってもら

ことが必要なのです。

調和のとれた雰囲気の中での授業では、個人的な内容に深く踏み込んだ、また不安に感じるようなテーマを出すべきではありません。生徒が不快感を覚え、不安を増大させ、緊張や衝突を生むようなテーマは避けなければなりません。そして情報のコミュニケーションや、授業の経過において、伝達した情報が、明確であるか、理解されたかに注意しなければいけません。

最後に、教師と生徒、また生徒同士のコミュニケーションの輪を絶ってはいけません。単調にならないように、さまざまな内容で授業を進めます。今述べました、教室の配置、生徒間の関係構築、調和がとれ、緊張のない雰囲気づくり、情報伝達の正確さ、多様性などは、真の健全なコミュニケーションの基礎となります。結論としまして、教師は優れた「情報伝達者」でなければならず、それは外国語教育学すべての基礎となります。